

## 第2学年国語科学習指導案

日時 平成26年10月2日(木) 公開授業2  
児童 2年生 男4名 女7名 計11名  
授業者 菅野 信

### 単元名 お話のせかいを音読劇でたのしもう

○中心学習材「お手紙」(光村2年下)

#### 1 単元の目標

- ◎場面の様子について、登場人物の行動や会話を中心に想像を広げながら読む。(読ウ)
- 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読をする。(読ア)

#### 2 単元を貫く言語活動の特徴

本単元では、「音読劇」を言語活動として取り入れ、場面の様子を想像しながら音読をすることにより、「お話のせかいを楽しむ」という設定にする。本単元で扱う中心学習材は、会話文が多く、児童が登場人物になりきって音読を楽しむことができる物語である。自分の声を自分でも聞くことができる音読は、文字を音声化し、物語の内容を確かめながら読むことができる。しかしながら、児童にとって場面の様子や人物の様子を想像し表現することは容易ではない。そこで、音読と簡単な身体の動きを取り入れることにより、抵抗感なく本単元の目標「想像を広げながら読む」ことにせまることができると考え音読劇を取り入れることにする。

#### 3 子どもと単元について

##### (1) 児童の実態

児童はこれまで、第1学年で「ゆうだち」や「くじらぐも」、「たぬきの糸車」の学習をし、動作化や音読の工夫、人物のせりふを考えることの活動をしてきている。また、第2学年になってからは、「ふきのとう」や「スイミー」などの学習で、人物の行動や会話から場面の様子を想像しながら音読する学習も経験している。これらの学習経験をとおして、時、場所、人物の行動に気をつけて読もうとするようになってきている。しかしながら、字面だけでは誰が何をしたのかを十分に理解できない児童や、物語の場面の展開に沿って想像を広げて読むことが困難な児童もいる。

##### (2) 学習材について

本単元は、アーノルド＝ローベルの作品「お手紙」を、がまくんとかえるくんという二人の登場人物の行動、会話をもとに想像を広げながら読むことをねらいとしている。二人の会話が中心となって構成されている本教材は、二人の微笑ましいやりとりから感じとれる心あたたまる関係に触れることで、読後の清涼感を味わえる教材である。児童が音読をする際、人物になりきって読み進めることのできる親しみやすい教材であると言える。また、本学習材は、長文ではあるが、挿絵から場面や人物の様子の変化を見つけることもできるなど、想像を広げながら読むには適切な教材であると考えられる。

##### (3) 指導にあたって

本単元の指導にあたって、段階ごとに留意することは以下のとおりである。

第1次では、本単元の教材と同一の作者の物語を用い、音読劇の活動モデルを示す。人物の行動にあった動きや会話文の読み方を工夫する音読について触れ、第3次で行う音読劇に向けた見通しをもたせるようにする。「お手紙」を読んだり、挿絵の並べ替えをしたりすることにより、物語のおおよその内容を確認できるようにする。

第2次では、児童が、場面や人物の様子の変化を把握した上で想像して読めるような読み取りを進めるようにする。物語を時、場で場面に分け、人物の様子を行動や会話から読み取るように学習を進めていく。だれの言った言葉かを明確にするとともに、挿絵からわかることを文章からの読み取りにもいかしていくことで、確かな読み取りができるようにする。音読には、人物の様子や場面が聞こえやすいような工夫を、シートへの書き込みで取り組みやすくしていく。第1次で紹介した音読劇のモデルを自分で試してみることで、進んで音読できるように励ましていくことにする。また、シリーズの他の作品を併せて読み進め、第3次での音読劇に向けた準備と、がまくんとかえるくんについての情報を得たり親しみを深めたりすることができるようにする。

第3次では、第2次の学習をもとに、グループに分かれて音読劇の発表を行う。選んだお話のお気に入りの場面を音読劇で交流することにより、がまくんとかえるくんのお話の世界を存分に楽しめるようにしていく。

#### 4 本単元の評価規準

国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
・物語の楽しさが伝わるように音読しようとしている。	・登場人物の行動や会話に注意して、場面の様子を想像しながら読んでいる。 ・語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読している。	・主語と述語の関係、会話文に注意している。

#### 5 学習指導計画（全12時間）

	主な学習活動	読みの視点	評価 《 》 評価方法
第1次 (2時間)	第1時 既習作品の音読劇演示により、課題意識をもつ。  (並行読書：シリーズの作品)	設定（時、場、人物、できごと）	関音読劇をするという見通しを持ち、物語を楽しく読もうとしている。《観察・発言》
	第2時 「お手紙」の読み聞かせと挿絵の並べ替えにより、物語の場面構成と展開のおおよそをつかむ。	構造（いつ、だれ、どこ）	読人物の行動や会話文、挿絵などから、物語のおおよそをとらえている。《観察・発言》
第2次 (7時間)	第3時 玄関で、二人が手紙を待つ場面の様子について想像を広げながら読む。	設定（行動、会話）	読人物の行動や会話に着目して、悲しそうな二人の様子を想像しながら読んでいる。《シート・発言》
	第4時 かえるくんが手紙を書く場面の様子について想像を広げながら読む。	設定（行動、会話）	読人物の行動や会話に着目して、かえるくんががまくんのことを思っている様子を想像しながら読んでいる。《シート・音読》
	第5時 かえるくんがかたつむりくんを待つ場面の様子について想像を広げながら読む。	設定（行動、会話）	読人物の行動や会話に着目して、二人がそれぞれの気持ちで手紙を待つ場面の様子を想像しながら読んでいる。《シート・音読》
	第6時 (本時) 起きてきたがまくんが、かえるくんと会話をする場面の様子について想像を広げながら読む。	設定（行動、会話）	読人物の行動や会話に着目して、互いを思う二人の様子を想像しながら読んでいる。《シート・音読》

	第7時	玄関で、二人が手紙を待つ場面の様子について想像を広げながら読む。	設定（行動、会話）	読人物の行動や会話に着目して、しあわせそうな二人の様子を想像しながら読んでいる。《シート・音読》
	第8時	「お手紙」のお気に入りの場面を選び、台本を作って音読劇の練習をする。	言語表現（様子）	閲読みとったことをいかして音読を楽しもうとしている。《観察》
	第9時	台本に書きこんだことを生かして選んだ場面の音読劇を発表する。	言語表現（様子）	読語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけ、なりきって音読している。《音読》
第3次 (3時間)	第10・11時	シリーズの中から選んだお話の台本を作り、音読劇の練習をする。	設定（行動、会話）	読人物の行動や会話に着目して、人物の行動や気持ちの変化を想像しながら読んでいる。《シート・音読》
	第12時	選んだお話の音読劇発表会をする。	言語表現（様子）	閲これまでの学習を生かして音読劇を楽しもうとしている。《観察》 読語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけ、なりきって音読している。《音読、シート》

## 6 本時の指導

### (1) 本時の目標

- ・場面の様子について、二人の行動を中心に、想像を広げて読むことができる。（読む）

### (2) 確かに読み取るための読みの視点

- ・場面の様子について、二人の行動や会話に着目して想像を広げて読む。【設定】

### (3) 展開

段階	学習活動・学習内容	指導上の留意点
みとおす 5分	1 前時までの学習を想起する。 2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">4のばめんのようすを考えて音読をしよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導上の留意点<math>\text{□}</math>は読みの視点</li> <li>・挿絵、人物の行動の掲示を見ながら、想起させる。</li> <li>・ベッドから窓辺に来たがまくんとかえるくんがどんな様子で会話をしていったのかを考える学習であることを確かめる。</li> </ul>
ふかめる 32分	3 学習課題を解決する。 (1) 窓の外を見ている二人の会話の場面を読み、だれの言葉かを確認する。 (2) 二人の挿絵をもとに、二人がどのような気持ちで会話をしていたのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくんとかえるくんに分かれて読んで確かめる。</li> <li>・寝室のがまくんと、窓辺のがまくんの2枚の挿絵を見比べさせ、表情のちがいに着目させる。</li> </ul> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">がまくんやかえるくんの行動、会話から、二人の会話の様子を読み取る。【設定】</div>

	<p>(3) この場面に合うタイトルを理由もつけて考える。</p> <p>(4) グループに分かれて役割読みをして互いの音読のしかたを交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・場面の様子を特徴的な言葉で表すことで、音読にいかそうとする意識をもたせる。</li> <li>・互いに聞き合うことで、想像した読みの交流を図る。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>評価規準 二人の行動や会話をもとに、お互いを思い合う二人の様子を想像しながら読んでいるか。 《シート、発言》</p> </div>
<p>まとめ 8分</p>	<p>4 学習のふりかえりをする。</p> <p>5 次時の学習について確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・がまくんとかえるくんの様子を考える時に、気になる会話文に目をつけて読むことができたかを振り返らせる。(シートへの記号記入、1、2名の発言)</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>かえるくんの気持ちが強く出ているところを見つけて、自信があるように読むことができました。</p> </div>

(4) 板書計画

ふりかえり  
(シート)

4の場面  
(P12L3~P14L2)

「あぁ。」  
がまくんが言いました。  
「とてもいいお手紙だ。」

「かえるくん、どうして、  
きみ、ずっとまどの外  
を・・・」

お手紙  
四のばめんのようすを考えて音読をしよう。



おどろいた  
うれしくなってきた  
お手紙をまつのがたのしくなってきた

がまくん